

# 1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2470201209		
法人名	有限会社コーブンシャ		
事業所名	グループホームほのぼの		
所在地	三重県四日市市笹川2丁目175番地		
自己評価作成日	令和6年2月3日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;ligosvoCd=2470201209-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;ligosvoCd=2470201209-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和6年3月7日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者が住み慣れた自宅での生活に、より近い環境で過ごせるよう、昭和の雰囲気が漂う空気感を大切にしています。また、ご家族様や近隣との交流や、自治会の地域行事に積極的に参加しています。「ゆっくり・いっしょに・たのしく」を理念として、笑いの絶えない「ほのぼのの家」の家族になれるように心掛けています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所は大規模な団地内の一角にあり、民家と見間違ふほど地域に溶け込んでいる。創設者の古民家住宅を利用し、利用者が住み慣れた自宅での環境に近い場所で安心して暮らせるように配慮されている。自治会、民生委員の協力も多くあり、防災訓練・地域の掃除・夏祭りへ参加・認知症カフェの開催など地域の方々と共に高齢者の生活をサポートしている。管理者・職員は利用者が笑顔で毎日を過ごしてもらう工夫や室内レクリエーション等でストレスの発散となる支援に努めている。自慢となる食事は3食とも職員の手作りで、食べる楽しみを味わっている。また職員の資質向上に向けた研修も多くチャットワークのツール利用で業務の効率化を図る取り組みをしている事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいて、利用者様の可能性を見出し、意欲を導き出すよう心掛けており、過介護をしないよう意識している。	事業所理念「ゆっくり、いっしょに、たのしく」を来訪者にも目に付きやすい玄関やリビング・居間などに掲示している。職員は理念に沿って利用者本位の気持ちで家庭的で和やかな雰囲気での支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族、自治会長や民生委員の方に参加していただき、運営推進会議を2カ月に1回開催している。	コロナ禍がおさまりつつあり少しではあるが訪問を増やしている。地域の情報は自治会や民生委員を通じて得ることが出来、掃除に参加したり認知症カフェの開催、夏祭りに招待される等地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や認知症カフェを通じて、地域の方々との交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2カ月に1回開催して、リアルに顔を合わせて意見・要望を伺って交流を深めている。	今年の4月より行政、地域包括支援センター、自治会長、民生委員、家族代表の参加を得て対面で6回、開催している。利用者状況・事業報告・研修報告の他、議題検討の意見交換も多く、それらをサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症カフェを開催し、参加していただき協力していく。月1回程度、訪問営業を行っている。	市や包括へは各種手続き、連絡や相談に行っている。運営推進会議に行政の参加があり色々な情報を直接聞くことが出来ると共に対応などの助言もあり、協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束や心理的な拘束について、勉強会を行って話し合っている。日中は玄関の施錠をできるだけしないようにしている。	身体拘束適正化委員会を3か月毎に開催している。毎月のミーティングで拘束（身体・言葉）虐待防止について研修している。玄関の施錠も含めて拘束については全職員が理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉掛けの一つ一つに常に注意しており、疑問に思ったことは勉強会で話し合い、より良い解決策を心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	配布されたパンフレットや関係先のホームページ等から情報を習得して、勉強会等を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にしっかりと説明や読み合わせ確認等を行って、納得のいくまで話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加を促し、話し合いをして報告を行い、意見・要望等を伺っている。	面会が短時間の居室内となり家族の訪問が増えた。家族には運営推進会議に参加時や毎月の「ほのぼの通信」を通じて利用者の近況報告をし、意見・要望を聞く工夫をしている。聞いたことは申し送りノートに記入し全職員で共有し、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回ミーティングを開催して、社長、ケアマネージャー、職員が参加し情報提供、意見交換等を積極的に行っている。	管理者は年1～2回、職員と個別面談を実施している。業務内容や人間関係などについて全体のミーティングでは聞けない声を大切にし、その声を運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員不足が慢性的に続いており、時々、他施設から応援してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修を行い、技術力向上、知識向上を行って、職員間の連携を密にしてサービスの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所との交流を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個人対個人の関係と環境を作り、傾聴や対話を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に対話と提案を心掛けている。時には電話をかけ、様子をお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンスを行い、情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護や援助をするだけでなく、本人の能力に応じた家事などに参加してもらうように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	双方との会話と意見交換をする場を提供していく。RUN伴に家族と利用者で参加いただいた。情報提供・交換を密にして関係性を深めていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様との連絡を定期的に行なうと共に、面会訪問を積極的に行なっていた	現状において事業所以外の人や場との関係継続は難しいが、家族や知人に暑中見舞いや年賀状を出す支援をしている。職員は時々、居室の写真を見ながら回想法の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの個性を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設で培ったその人の知識と情報を家族様と共有していく。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	様子観察や対話などから希望や意向を受け取ったときには、ミーティングや申し送り等で対応策を検討している。	入居時に一人ひとりの思いを汲み取って希望や趣味などを聞いているが入居後も一日を通して支援時に利用者に寄り添い本音を聞き取り、申し送りノートに記入し職員間で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の資料、入居時より関わっている職員より情報を得ている。 本人との会話により記憶を導き出させていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護アプリを使用して、日々の活動状況や特記事項を記録して申し送り等にも活用し、ミーティング等で活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意見交換しやすい環境と即実践していけるアイデアを活かした計画を立てている。	毎月の職員会議で、利用者個々の介護記録を基に話し合い、モニタリングと評価を行い、現状に即した介護計画を作成している。状態に変化があれば医師・家族の意向も踏まえ計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護アプリを使用して日々の記録を行い、集約して計画立案等に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員のレベルアップの講習と教育に力を入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回の相談員の訪問を受け入れている。地域行事に積極的に参加をして交流を深めて、顔なじみの関係性を深めるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医に月1回の往診をお願いしている。医師と薬剤師と職員の情報の共有化に努めている。	全員が協力医を主治医とし、月1度の訪問診療と薬剤師による薬の管理を受けていたが、先月より主治医を変更した。現在、看護師も含めて契約内容などを見直し検討中であるが、常に適切な医療を受けられるように支援している。	利用者の健康管理や24時間（夜間の急変時含む）、医師への連絡などがスムーズに行われ職員や家族の安心に繋がる医療支援となるよう期待する。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個人の記録ノートを見せ、支援してる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的な面会を行っている。担当看護師や家族との状況確認や相談などの時間を作っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所での対応範囲をご理解いただき、家族の意向に添えるよう、できる限り協力させていただく。	入居時、協力医の変更と看護師不在で事業所として終末期に出来ること出来ないことの説明や緊急時の具体的な支援の在り方などを本人・家族と話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を受け、学習の機会を作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。業務継続計画（BCP）の策定をするため、具体的に規約を作成している。	消防署立会いの下、年2回、火事・地震・台風などを想定し、避難訓練をした。訓練時に職員がマニュアルに沿って的確に行動する様子が良かったと消防署より表彰を受ける予定である。また、BCP 研修を3か月毎に受講している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の想いを大切に対応していく。	事業所内研修を通じて全職員が一人ひとりの尊厳とプライバシー保護について理解している。日頃の何気ない一言で利用者を傷つける事が無いように職員間で話し合い、接遇マナーを研修している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴や対話を通じて支援していけるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の問いかけに素直な気持ちで耳を傾けていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみを実現できるように支援している。2か月に1度はプロの理美容室に来てもらい、本人の意見を聞き、ヘアカットなどを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限り手作りの料理の提供を心掛けている。	献立作成から買い物・調理まで3食とも職員の手作りで、季節の食材を使った家庭料理を提供している。利用者は出来る範囲内で、食器を洗ったり拭いたりの手伝いをしている。毎月のおやつレクは利用者の楽しみであり、誕生日食と共に利用者の笑顔に繋がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量には気を付け、状態に合った支援に取り組んでいる。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食、夕食時に口腔ケアを行って、口腔内の清潔を保持、健康保持を心掛けている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に合った時間を見極めて排泄の促し、介助等を行っている。	全職員が一人ひとりの排泄パターンを把握して、見守り、声掛け、誘導をしながら最低限の排泄介助に取り組んでいる。便秘には水分補給や服薬など主治医と相談している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、運動と体操で体調を整えるとともに、排泄状況を把握、管理して、便秘の予防に心掛けている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	生活の楽しみの時間として、気持ちよく入れる環境を整えて、その人に合った支援を心掛けている。	浴室をリフォームした事で脱衣場が広くなり車いすでの出入りが楽になった。週3回入浴を基本としているが、利用者の体調に合わせて足浴・シャワー浴・清拭など柔軟に対応している。湯船に一人ずつ入り職員と対話しながらゆったりと過ごしてもらう工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の清潔保持、入眠時の声掛けに心を配っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示のもと、決まった時間の服用と症状の変化の確認、報告に努めている。薬剤師の先生とは薬を届けていただく時以外にも、電話にて相談、指示をいただいている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状態を見極めて、生活面での役割をできるだけ持ってもらい、喜びを味わってもらうように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季を肌で感じてもらえるよう散歩に出たり、車で近隣へミニドライブをして気分転換を図ったりしている。	日常的な外出は出来ないが、人混みを避けて神社へ初詣、季節の花々（梅・桜・コスモスなど）を見に近くの公園へ行っている。お天気が良いと庭に出てベンチで日光浴や畑の野菜を見るなどして外出気分を味わってもらう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設でさせていただいていますが、行事や外出時にお金を持って購入してもらうように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話対応、取次を行っている。思い込みで不穏になられた時は、家族の声を聴いていただく時もある。家族への手紙やハガキを書いていたしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を目で見て、肌で感じられる居室作りを行っている。	一般家庭の間取りで食堂と居間があり、目的に合わせて塗り絵やゲーム、レクレーション等をしている。居間の壁には季節感を取り入れた手作り作品が飾られ、台所からは食欲を誘う匂いが漂っていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の想いを尊重できるように、リビングでの過ごし方や席の場所は固定しない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物を持ってきていただき、居室においている。	事業所としてエアコン、ベッド、クローゼットが設置されている他は、本人が使い慣れた家具やお気に入りの写真などを飾っている。職員は毎月布団干しやシーツ交換をして清潔を保ち、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり・スロープ等を設置し、自立に向けた介護をしている。		